

地方都市における地域愛着の形成と都市施設整備の関係性に係る研究

宇都宮大学 学生会員 ○須田 愛美
宇都宮大学 正会員 長田 哲平
宇都宮大学 正会員 大森 宣暁

1. はじめに

(1) 研究の背景

近年、我が国では、若年人口の東京都市圏への一極集中、及びそれに伴った地方部の過疎化が問題視されており、この問題に対する政策として地方創生が挙げられ、各地方での地域活性化が話題となっている。また、今後加速する人口減少に対応するために、平成26年には「まち・ひと・しごと創生法」¹⁾が制定され、多くの都市で人口減少克服と地方創生をあわせたまちづくりが推し進められた。人口減少が進む社会では、個々の地域に対して多様なニーズを満たすまちづくりを進めていくことが重要である。これを満たすためには、行政だけではなく住民の参画も必要不可欠であるが、十分に行われているとはいえない。都市計画マスタープランにおける公聴会等が開催されても、住民意見の聴取における参加者の属性の偏りや、参加人数自体が少ない等の問題がある²⁾。この理由として、住民側の計画参画への動きが積極的ではないことが一つとして挙げられる。住民個々が住むまちに対する愛着（以下地域愛着とする）と都市計画を関連付けた研究では、地域愛着を高めることが、住民の計画参画への積極的・協力的な関与を促し、まちづくりや都市計画への関心を向上させる可能性を持つことが指摘されている³⁾。

(2) 本研究の位置づけと仮説

鈴木ら⁴⁾は都心部における様々な施設を取り上げ、アンケート調査を行うことで、各施設への愛着とまちへの愛着の関係性を明らかにした。その結果、魅力的な施設を整備することで、住民のまちへの愛着を高めることができる可能性を示した。しかし、分析におけるサンプル数の不足や、時系列変化の考慮が課題として挙げられる。

地域愛着が都市にとって重要な意味を持ち得ることが示唆されているものの、地域愛着と都市施設整備とを関連づけた研究は少ない。本研究では、地方都市である栃

木県宇都宮市を対象とし、地域愛着が高い地域は、日常生活において必要とされる商業施設や医療施設などが整備されている、すなわち、暮らしやすい地域であるという仮説を立てた。その仮説を基に、主に宇都宮市における立地適正化計画⁵⁾で取り上げられている都市施設の中でも、商業施設や医療施設、福祉施設等の都市施設を対象とすることで、地域愛着との関係性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

研究のフローとしては、まず、宇都宮市が実施したブランド戦略アンケート調査⁶⁾より、宇都宮市民における地域愛着の実態を把握する。アンケートの調査概要については、表-1に示す。続いて同市内における都市施設整備を把握し、最終的に地域愛着と都市施設整備との関係性を分析から明らかにする。

3. 宇都宮市民における地域愛着の実態

本研究では宇都宮市が実施したブランド戦略アンケート調査結果⁶⁾より、宇都宮市民における地域愛着の実態を把握した。今回は2014年から2016年の3年間分のアンケート調査を用いて集計を行った。「宇都宮というまちに愛着を感じますか」という設問に対して、「感じる・感じない・どちらでもない」の選択式で回答してもらったところ、個人属性と地域愛着に関する結果として、図-1に示すように、年代や居住年代等の個人属性が地域愛着に影響していることが読み取れた。また、「宇都宮は暮らし

表-1 宇都宮市が実施したアンケート調査概要⁶⁾

調査対象	宇都宮市内在住者（住民基本台帳に登録されている20歳以上70歳未満）		
調査実施期間	2014年12月1日から 2015年1月30日	2015年12月1日から 2016年1月30日	2016年12月12日から 2017年1月7日
取得サンプル数	765名	820名	690名
性別	男性292名 女性468名	男性332名 女性485名	男性247名 女性438名

キーワード 地域愛着、都市施設

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学工学部 TEL028-689-6224 E-mail:plan@cc.utsunomiya-u.ac.jp

やすいですか」という暮らしやすさに関する設問に対して、「暮らしやすい・暮らしやしくない・どちらでもない」の選択式で回答してもらい、(図-2 はこれと地域愛着に関するクロス集計の結果である) 地域愛着と暮らしやすさに関する設問回答にそれぞれ0・0.5・1と重みを付け、地域愛着が高い地域は暮らしやすい地域であるという仮説を基に、地域愛着と暮らしやすさのSpearmanの順位相関分析を行ったところ、1%水準で相関係数が0.509となった。宇都宮市民の地域愛着と暮らしやすさの双方間には正の相関が見られ、地域愛着が高いほど暮らしやすいと思うことが分かった。

4. 地域愛着と都市施設整備の関係性

本研究で用いる宇都宮市内の都市施設は表-2に示したものをを用いた。地域愛着と暮らしやすさとの間に相関が見られたことから、前述の暮らしやすさに関する回答結果と、都市施設の現状データとして、宇都宮市内における町名区分での、各回答者居住地域1km²あたりの各都市施設数の分布を数値化したものを用いて、双方間の2変量相関分析を行った。分析を行った結果、表-3に示すように、住んでいる地域における商業施設及び医療施設の施設分布数が多いほど、暮らしやすいと思うと考えられる結果が得られた。

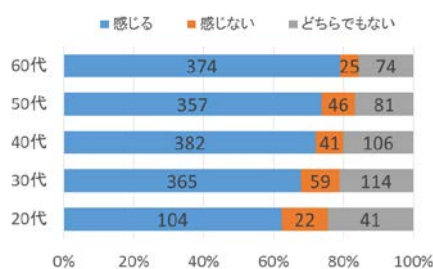


図-1 宇都宮市民における地域愛着（年代別）n=2191

(取得サンプル数から対象外サンプル及び未回答を除く)

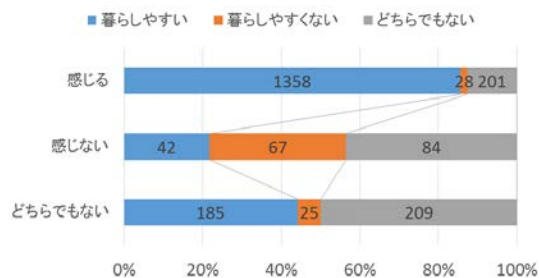


図-2 宇都宮市民における地域愛着と暮らしやすさ n=2199

(取得サンプル数から対象外サンプル及び未回答を除く)

表-2 対象とした都市施設の概要

区分	対象施設	区分	対象施設
商業施設	小売業者	医療施設	病院
	卸売業者		診療所
福祉施設	保健センター		歯科診療所
	福祉センター	文教施設	小学校
	福祉施設		中学校
子育て施設	保育園		高等学校
	保育事業者		大学
	幼稚園		短期大学
	幼児園		専修学校
	こども園	金融施設	郵便局
	託児所 等		銀行支店 等

表-3 暮らしやすさと各都市施設整備との相関

		商業施設	医療施設	福祉施設	文教施設	子育て施設	金融施設
暮らしやすさ	Spearmanの順位相関係数	.055*	.068**	-.003	.021	.009	.024
	有意確率(両側)	.010	.002	.892	.330	.661	.270

※各施設は面積1km²あたりの施設数として換算。
また、*は相関係数が5%水準で有意(両側)、**は1%水準で有意

5. おわりに

本研究で得られた知見として、以下が挙げられる。

地域愛着が高いほど、暮らしやすいと思うこと、また、市民が暮らしやすいと思う地域においては、特に商業施設と医療施設の整備が関係している可能性があることが明らかとなった。

しかし、これら都市施設整備に加えて、考慮する要素として、各地域における道路整備状況や道路の種類、また公共施設である公園・緑地等を取り入れることで、地域愛着を高める、すなわち、暮らしやすい地域を生み出すために、必要な施設整備がさらに明らかになるのではないかと考えられる。また、これらの結果を考慮して、多変量解析を行うことで、個人属性を含め、各種都市施設が与える影響を考慮したモデル式を構築できるのではないかと考えられる。

参考文献

- 1) 内閣官房：まち・ひと・しごと創生本部：まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」，H26
- 2) 田中みさ子：市町村都市計画策定における住民参加の現状と課題，大阪産業大学学会 人間環境論集 12，2013
- 3) 松田和香，石田東生：都市計画マスタープラン策定過程におけるパブリック・インボルブメント活動および情報提供が市民意識等に与える効果の分析，都市計画論文集，No.35，pp871-876，2000
- 4) 鈴木崇之，石川徹，貞広幸雄，浅見泰司：都市施設が居住者のまちへの愛着に及ぼす影響に関する研究，都市計画論文集，Vol.46,2011.
- 5) 宇都宮市：「立地適正化計画」
- 6) 「宇都宮市ブランド戦略報告書」，平成 26~28 年度版